

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000173		
法人名	社会福祉法人 北見睦会		
事業所名	グループホームかがやきの里むつみ2号館・3号館		
所在地	北見市美芳町10丁目1番8号		
自己評価作成日	平成25年1月22日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action.kouhyou\\_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0175000173-0](/index.php?action.kouhyou_detail.2012.022.kani=true&JigvosvoCd=0175000173-0)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年2月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念に従い、元気よく笑顔と感謝の気持ちを持って利用者に接します。法令遵守、及び説明責任を十分にはたしていきます。日々学習しサービスの向上知識の習得に努めます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造り3階建ての2・3階部分がグループホームで1階には法人のデイサービスや居宅介護、訪問介護事業所が併設されており、利用者は週1回デイサービスへ通い、体操やゲームを通して通所されている利用者や交流を深めています。内装は白を基調とした開放的な空間構造で明るく、利用者が快適に暮らせるようユニット毎に利用者の特性に応じて居心地の良い住環境を提供しています。ゆっくりと、自分のペースで、尊敬のある生活を維持できるよう支援することを理念に掲げ、職員は常に自分に置き換え、多方面からの視点に立ち利用者の尊厳を大切にケアの実践に努めています。毎年、多くのグループホーム入居者が集うひばり合唱団への参加は定期的な外出機会、社会とも触れ合う機会として取り組んでいます。管理者は系列事業所と共に他グループホーム見学や新人を含めた職員教育に力を注ぎ、法人内、外部研修の充実を図り、資格取得や職員の意欲向上に活かしています。又、法人内で2級ヘルパー資格を取得できるのは特徴の一つになっています。更に、夜勤専任職員や日中最大5名の人員配置で動きやすい職場環境を整えています。地域住民との交流の場として美芳館かがやき祭りの開催や保育園児との触れ合い、利用者のできることを活かし楽しみのある生活に繋げています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで理念を唱え、利用者への支援、援助に迷ったときなど理念を振り返り、行動に移している。	開設時からの理念を事務所やリビングに掲示し、毎朝ミーティング時の唱和を通じて理念の浸透を図り実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、行事に参加したり、ホームの行事に参加いただいている。	町内会や事業所行事での相互交流が行われ、保育園児との触れ合う機会も多く、利用者の元気の源になっています。囲碁ボランティアや大正琴の慰問、中高生のボランティア体験の受け入れなど、地域資源の活用や事業所機能の還元に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や施設のお祭りに地域の方に来ていただき、日頃の運営の内容や、今後のあり方等、意見をいただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録を作成し、職員にも回覧しサービスの向上に活かすよう努力している。	家族、地域住民、地域包括職員や施設長も参加した運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、事業所の取り組み状況について話し合い運営反映に結びつけています。議事録は欠席された家族へ郵送し、更に、職員も回覧で情報共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加頂き、意見こうしている。	市の担当職員とは常日頃より相談や情報交換に努め、更に、実施指導を通じてサービス向上に反映するよう取り組んでいます。又、市職員が講師となった法人内研修が開催され協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない意識を常に持ち些細なことでも拘束にならないか考えながら援助している。	身体拘束廃止、ターミナルケア、法令遵守等の法人内研修を充実させ、職員の共有認識を図り、利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援しています。言葉づかいについてはその都度振り返り検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、拘束の研修やマニュアルに従い虐待防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、成年後見人が付いている利用者もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書を全文読み、補足しながら説明し納得していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時や運営推進会議の時に意見を聴き運営に反映で出来るよう努力している。	毎月通信を発行し、利用者や事業所の様子を知らせています。家族の来訪時や運営推進会議、ケアプラン作成時を大切な機会と捉え、直接言って貰えるよう取り組んでおり、寄せられた意見等には速やかに対応し、運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒヤリングを行い、普段のミーティング、朝礼の時も意見を聞く機会を設けている。	朝礼時やミーティング、個人面談等を通じて職員の意見を受け止め、運営に反映するよう心がけています。又、法人内・外研修や職員体制を充実させ働く意欲向上、働きやすい職場環境を整えています。	今回、自己評価は管理者が作成しています。自己評価には全職員で取り組むことでケアの振り返りや気付きが得られる大切な機会として活用し、更なるサービスの質の向上に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の状況を把握し、環境、条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では外部講師を招き研修を行っている。外部の研修にも可能な限り参加の機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム勉強会の参加や合唱祭の練習への参加時に他事業所職員との交流が図られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、日常生活の様子や、本人の希望、要望をうかがっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様も、ご本人同様に、希望、要望を聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時や入居契約時に本人、ご家族から聞き取り、往診や通院の支援へとつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のお話を傾聴し、その方の人生経験や知恵、その思いに共感できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族宛ての通信や面会時に日常生活の様子を伝え、共感しあえるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より利用している美容院や床屋、病院受診、自宅への外出、外泊等、ご家族の協力のもと、継続している。	利用者のこれまでの生活の継続を支援し、理美容院、自宅への外出、外泊等、馴染みの場との関係が途切れないよう努めています。又、囲碁や編み物、縫い物等の趣味が続けられるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性を尊重し、支えあいながら生活していただけるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様には退所後もらい書していただけるよう声かけを行うよう努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスにてアセスメント内容をプランに反映するよう努めている。	アセスメントや利用者との日々の関わりでの会話などから希望・要望を把握し、職員は共有する中で利用者一人ひとりの思いを受け止め、その人らしい暮らしの支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様からお話を聞いたり、基本情報に目を通し、生活歴や環境を理解するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	位置に似と生活の様子は、ケース記録に記入している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活や身体状況に応じ、本人、家族、主治医等に意見を聴き、ケアカンファレンス会議にて介護計画について検討し作成している。	カンファレンスの中でモニタリングや再アセスメント、サービス担当者会議を通じてニーズの把握に努め、その人らしい生活を支援するため、個別の介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の24時間単位での生活記録を付け、職員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階のデイサービスの利用やボランティアによる困窮サービス、家族介護用品給付サービスの申請を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会のボランティア事業や学生の見学、近所の保育園の園児との交流など受け入れられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前より受診のかかりつけ医で受信頂けるよう家族の協力のもと支援している。	受診は、家族の対応で通院し困難な場合は事業所で支援しています。又、かかりつけ医による往診や、週に一度訪問看護師により健康管理が行われ安心な体制を構築しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師に週1回訪問してもらい健康管理を行っている。必要に応じ、随時相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報のやり取りを行い、医療機関との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、契約時に施設側の指針を説明している。	重度化した場合や、終末期に向けた方針は、看取りに関する指針を定め体制が整えば行う方向にあり、契約時に利用者、利用者家族に説明をし理解を得ています。時期が来れば再度利用者家族と話し合いを持ち、同意を得ながら支援する事とし、職員の研修にも取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、救急対応の研修を消防所や日赤主催の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加頂き、避難訓練を行っている。	年に2回消防署の指導の下、地域住民の協力を得て、防災訓練、避難訓練に取り組んでいます。又、訓練の結果を運営推進会議にて報告し、理解と協力を得よう努めています。AEDを導入し、職員は救命講習を受けて緊急対応できるような体制構築をしています。	年に2回訓練を実施していますが、一度は机上訓練であり更に避難訓練の実施と、あらゆる災害対策の体制構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションの中でも言葉遣いや、プライバシーを損ねないよう声かけに気を付けている。	管理者は、利用者一人ひとりの人格の尊重や、プライバシーを守ることを特に重要と考え、普段から職員に指導しています。又、職員からも声掛け等の提案があり誇りやプライバシーを損ねない接遇に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	援助の声かけで選択できるものがある時は利用者に決めていただけるように気を付けて声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、睡眠など本人の希望に沿って無理な押し付けはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容の援助にてその日来て頂く服等選んでいただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや嫌いな物等把握し、メニューを考えたり、身体状況に合わせ食べやすい形態にしたり、準備はできる事をして頂くよう努めている。	献立は一週間ごとに立てられ、職員により調理されていますが、後片付けや、食材の買い物は利用者と共にしています。好き嫌いは日々様子を見て把握し誕生日には楽しみな食事となるように配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は記録し常に確認し、状態に合わせた食事の形態、介助等をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから普通のパンツで対応できる方、昼間は普通で夜はパットを使用したりとその方に合わせ対応している。	生活記録の中でチェックしていますが、別紙に排便記録を付け、下剤使用を減らしながら健康管理を行い、その人に合った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤をなるべく使わないでもよいように、排泄の記録や排便の状態を確認し調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制の関係で入浴の時間は決まっている。できるだけ本人の希望する日に入れるよう努めている。	入浴は週2回を基本としていますが、利用者の状況や希望を尊重し支援を行っています。入浴時には利用者の皮膚の状態に気を配り健康管理にも配慮して支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたい時は自由に横になっていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	血圧の変化をきろくをして薬の効果を確認した入り移乗が見られる時は主治医に相談し薬の調整をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、趣味活動等できる事を無理せずして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調に配慮しながら、散歩や買い物、花見、お祭り等季節ごとの外出を支援している。	利用者が日常的に近隣の公園への散歩や買い物に出かけたり、ドライブで楽しんだりできるよう支援しています。年間行事計画や、事業目標に取り上げ利用者が毎日楽しく暮らせるように取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2号館ではお金を所持されている方はおらず、個人的ものはホームで立て替えて支払をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から訴えがあった時はいつでも支援できます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔感を保っています。利用者様の状態に合わせて配置替えしたり、して居心地良く過ごせて頂けるように配慮している。	各ユニットの居間は明るく広く、2台のエアコンや、加湿器で調整され快適な空間となっています。又、利用者、職員が一緒になり、体操をしたりゲームで楽しんでいます。壁には通信の写真や、季節の飾付けがされ居心地良く暮らせる様配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のホールでは気の合った者同士で過ごして頂けるようソファを置いて思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や使いなれた物を使用して頂くようにしています。	ベットは事業所で用意してありますが、筆筒や小物入れ等利用者の使い慣れた家具を使用したり、ぬいぐるみ写真、絵などを飾り居心地良く生活で来るよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせた支援をし自立した生活ができるように見守りや、介助をしている。		